

平成21年5月14日

各位

上場会社名 株式会社 宮入バルブ製作所  
 代表者 代表取締役社長 高井 洋  
 (コード番号 6495)  
 問合せ先責任者 取締役総務部長 佐野 邦男  
 (TEL 03-3535-5575)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年11月26日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,700	130	140	△3,690	△77.19
今回発表予想(B)	4,696	23	16	△4,057	△87.28
増減額(B-A)	△4	△107	△124	△367	
増減率(%)	△0.1	△82.3	△88.6	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	5,079	△192	△479	△561	△19.80

## 修正の理由

平成21年3月期の通期売上高につきましては、前回予想を若干下回りましたが、ほぼ計画通りの結果となり、収益面につきましても、海外からの部品調達および徹底した経費削減施策、生産効率向上施策等による製造原価低減効果および販売価格の改訂効果により収益性が向上いたしました。

従来、原材料(黄銅材)価格をヘッジする長期のコモディティ・スワップ取引について繰延ヘッジ処理を適用しておりましたところを当事業年度からヘッジ会計を適用せず原則的な処理方法、すなわち事業年度末に時価評価を行い、評価額は損益として処理する方法に変更しましたことから、営業利益、経常利益、当期純利益が前回予想から変動する結果となりました。

この変更は、原材料仕入に係る価格リスクの運営体制の強化およびデリバティブ管理規程の見直しを行ったことに伴い、長期のデリバティブ取引を財務諸表に的確に反映させることにより、財政状態を適正に表示するための変更であります。

この変更に伴い、従来の方法によった場合と比較して、営業利益及び経常利益は132百万円減少し、また、当期純利益は214百万円増加しております。

しかしながら、当期純利益につきましては、特別利益に上述のデリバティブ利益を計上しましたが、保有有価証券の株価下落による投資有価証券評価損639百万円、長期貸付金等に対する貸倒引当金3,592百万円および会計方針の変更に伴う棚卸資産評価損89百万円を計上したことにより、当期純損失は、4,057百万円となる見込みであります。

なお、貸倒引当金に関しましては、平成21年3月期第2四半期におきまして、当該貸付先の9月末時点における保有資産価値等を勘案した上で、当社の貸倒引当金に関する内規に基づき、貸倒引当金として3,176百万円を計上しておりましたが、当期末時点における当該貸付先からの回収可能性を再度精査した結果、貸付額のほぼ全額に当たる3,529百万円を貸倒引当金として計上いたしました。

今後当社は、当該貸付先に対し、返済期限内での弁済を求め法的措置を講ずる予定です。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により異なることがあります。

以上